

平成31〔令和元・2019〕年

広島県観光客数の動向

令和2年7月

一般社団法人広島県観光連盟

目 次

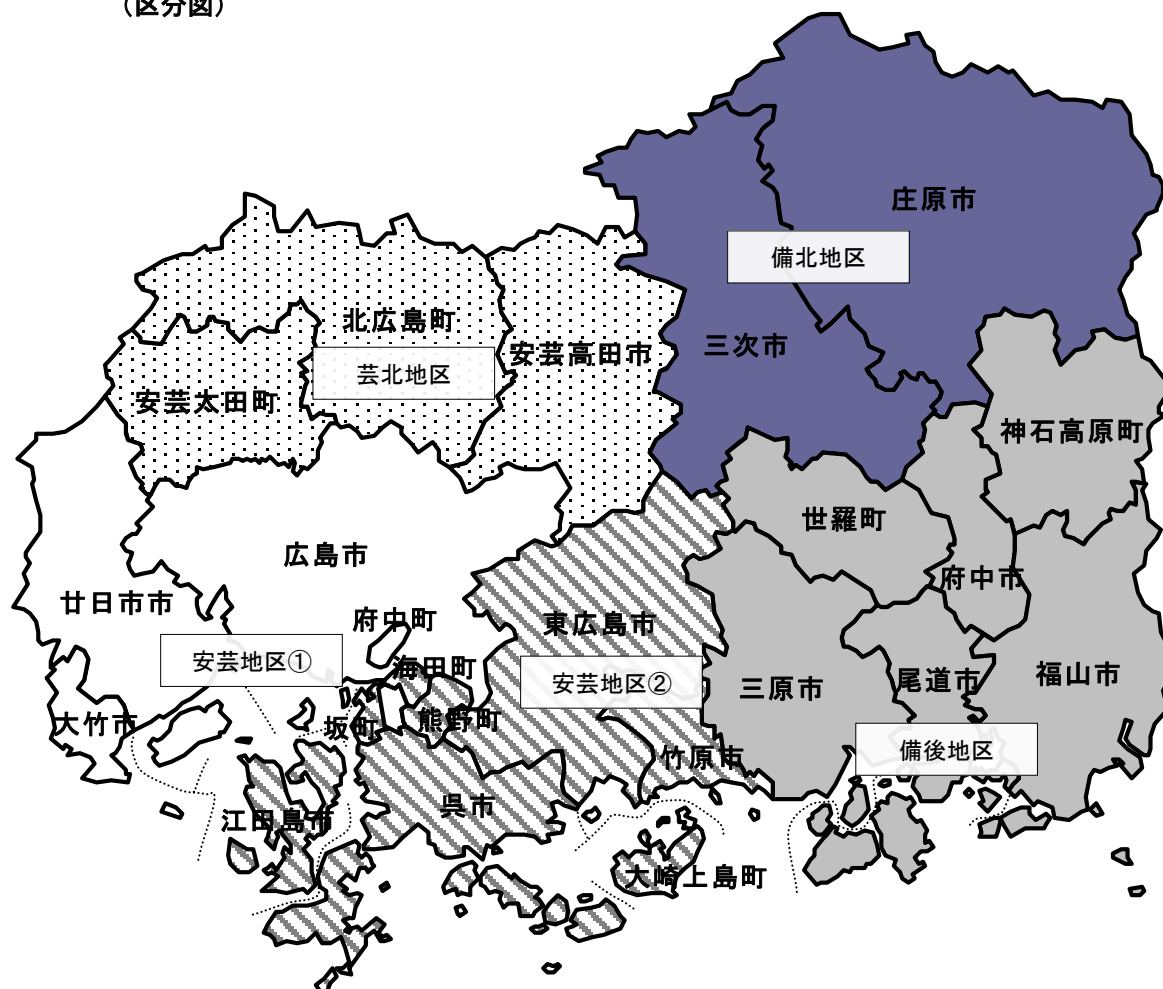
I	調査の概要	1
II	調査結果の概要	
1	観光客数の概況	
(1)	総観光客数	2
(2)	市町・地区別観光客数の状況	3
(3)	発地別観光客数の状況	5
(4)	目的別観光客数の状況	8
(5)	旅行形態別観光客数の状況	9
(6)	交通機関別観光客数の状況	10
(7)	月別・季節別観光客数の状況	11
2	外国人観光客数の状況	12
3	宿泊客数の状況	14
4	観光客数及び観光消費額の状況	
(1)	観光客数の推移	15
(2)	観光消費額の状況	16
III	観光客数統計表	
	第1表 総観光客数の推移	
	第2表 平成31(令和元)年発地別観光客数と観光消費額	
	第3表 平成31(令和元)年目的別観光客数	
	第4表 平成31(令和元)年旅行形態別・交通機関別観光客数	
	第5表 平成31(令和元)年月別観光客数	
	第6表 平成31(令和元)年県内主要・有料観光施設の月別利用状況	
	第7表 平成31(令和元)年市場別外国人観光客数	
	第8表 平成31(令和元)年月別宿泊客数	

I 調査の概要

この調査は、本県の観光客数、観光消費額等の実態を把握し、観光振興施策の立案、実施に当たっての基礎資料とすることを目的として、市町の協力を得て毎年実施しており、市町ごとに観光客の数、発地、目的、形態、利用交通機関、外国人観光客数、宿泊客数、観光消費額等について調査したものである。

- 1 この調査は、各市町が平成31年1月から令和元年12月までの1年間（暦年）の当該市町の観光客数等を推計し、一般社団法人広島県観光連盟で取りまとめたものである。
- 2 各市町の観光客数及び宿泊客数は、延べ人数である。
- 3 掲載した図・表の数値の合計や比率は、単位未満の端数処理を行っているため、観光客統計表の数値と一致しない場合がある。また、観光客統計表の数値は、単位未満の端数処理を行っているため、表内の項目計や表間で一致しない場合がある。
- 4 観光客数の状況等を地区別にみるため、次の5地区に区分して整理している。

(区分図)



Ⅱ 調査結果の概要

1 観光客数の概況

(1) 総観光客数

① 平成 31（令和元）年の総観光客数

平成 31（令和元）年の総観光客数は 6,719 万人で、平成 30 年と比べて 215 万人（3.3%）増加した。

平成 31（令和元）年は、平成 30 年 7 月豪雨の影響で中止されていたイベントや、一時休業していた施設が再開されるなど、復旧復興に伴う増加に加え、長期連休の影響により、前年を上回った。一方、暖冬の影響による雪不足や、厳島神社大鳥居の改修工事、宿泊施設の廃業等も重なり、豪雨災害前の水準（平成 29 年）までは至らなかった。

（単位：万人）

区 分	平成 31（令和元）年	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率
総観光客数	6,719	6,504	215	3.3%

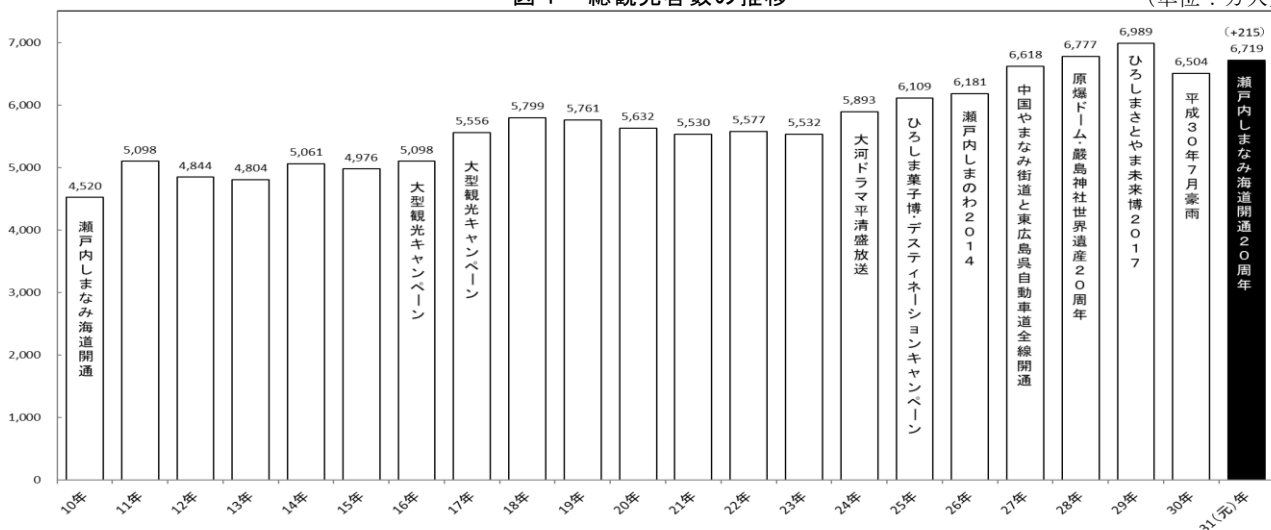
② 総観光客数の推移

本県の総観光客数は、平成 25 年に実施した「広島県destinationキャンペーン」などの効果により、初めて 6,000 万人を突破した。

平成 28 年はオバマ元米国大統領の来訪や原爆ドーム及び厳島神社の世界遺産登録 20 周年キャンペーンの効果などもあり好調に推移し、平成 24 年以降、平成 29 年まで 6 年連続して過去最高を更新していたが、平成 30 年は西日本豪雨災害、猛暑、台風などの異常気象の影響もあり、平成 23 年以来 7 年ぶりに対前年を下回った。平成 31（令和元）年は、前年値は上回ったものの、豪雨災害前の水準までは回復していない状況である。

図 1 総観光客数の推移

（単位：万人）



（単位：万人）

区 分	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総観光客数	4,520	5,098	4,844	4,804	5,061	4,976	5,098	5,556	5,799	5,761	5,632
対前年増減率	▲ 4.7%	12.8%	▲ 5.0%	▲ 0.8%	5.4%	▲ 1.7%	2.5%	9.0%	4.4%	▲ 0.7%	▲ 2.2%

区 分	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	31(元)年
総観光客数	5,530	5,577	5,532	5,893	6,109	6,181	6,618	6,777	6,989	6,504	6,719
対前年増減率	▲ 1.8%	0.8%	▲ 0.8%	6.5%	3.7%	1.2%	7.1%	2.4%	3.1%	▲ 6.9%	3.3%

(2) 市町・地区別観光客数の状況

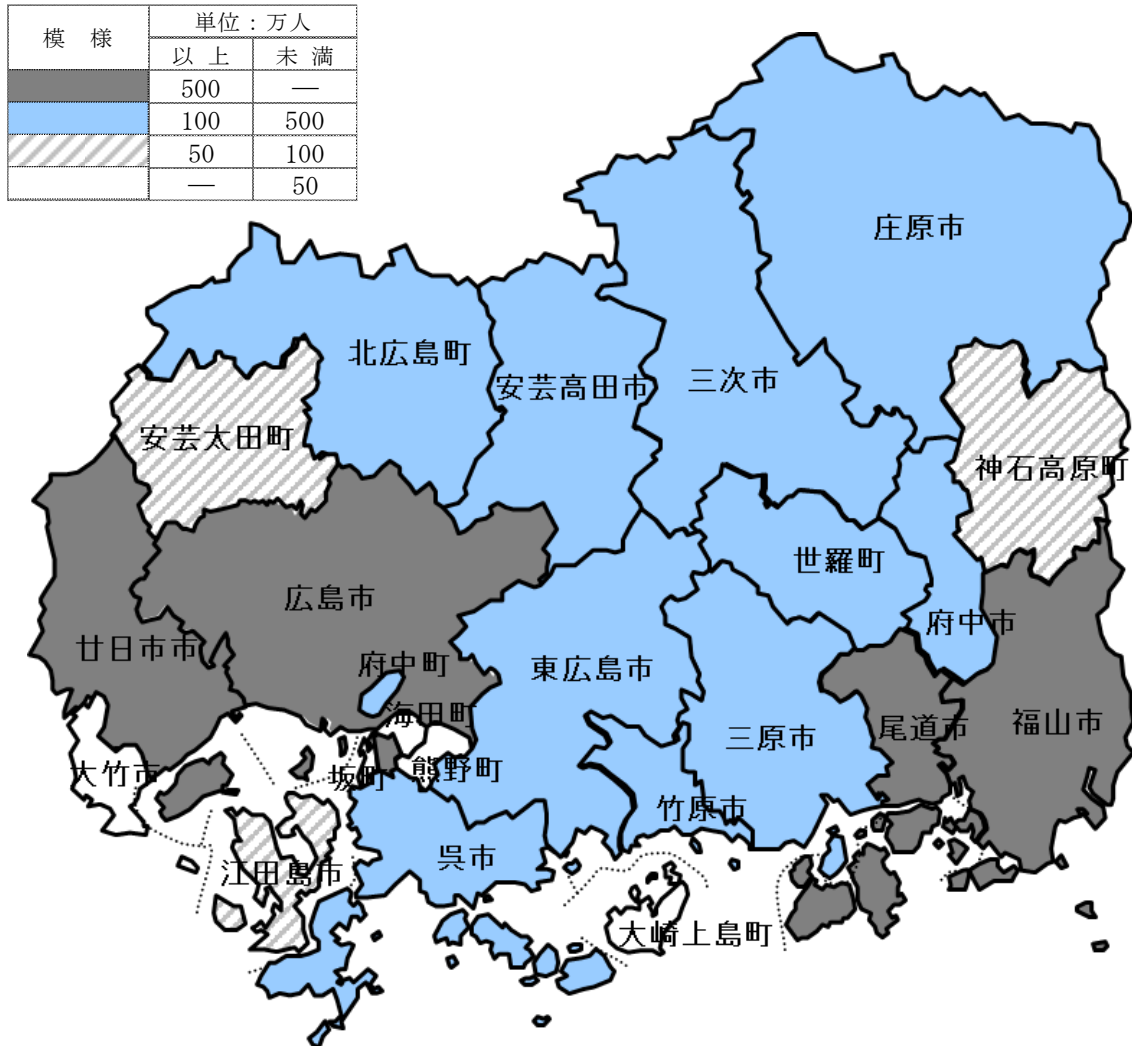
① 市町別観光客数の状況

市町別に見ると、広島市、廿日市市、尾道市、福山市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、総観光客数が多い。

なお、前年に比べて総観光客数は17市町で増加し、6市町で減少した。

観光客数	市町数	前年と比べて	
		増加した市町	減少した市町
500 万人以上	4 市	広島市, 尾道市, 廿日市市	福山市
100～500 万人未満	11 市町	東広島市, 三原市, 世羅町, 府中町, 竹原市, 安芸高田市, 府中市, 三次市, 呉市	北広島町, 庄原市
50～100 万人未満	3 市町	安芸太田町	江田島市, 神石高原町
50 万人未満	5 市町	海田町, 熊野町, 大竹市, 大崎上島町	坂町

図2 市町別観光客数の状況



② 市町別観光客数の順位（上位 10 位）

上位 10 市町中 8 市町で増加し、広島市、尾道市、三原市、東広島市及び世羅町は、平成 30 年と比べて 5 % 以上増加した。一方、福山市は、10%以上減少した。

(単位：万人)

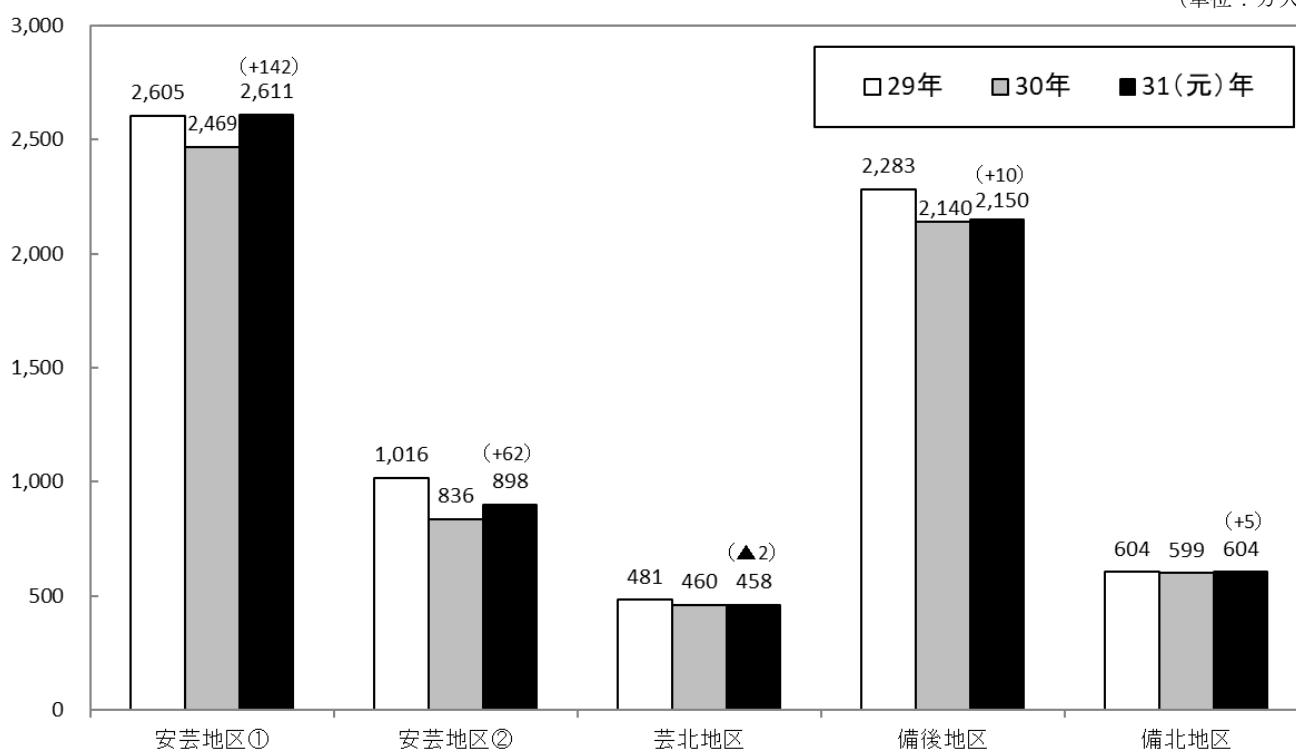
順位	市町名	平成 31 (令和元) 年	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率	前年順位
1 位	広島市	1,621	1,535	86	5.6	1 位
2 位	廿日市市	791	755	36	4.8	2 位
3 位	尾道市	683	640	43	6.7	4 位
4 位	福山市	630	716	▲86	▲12.0	3 位
5 位	三原市	416	391	25	6.4	5 位
6 位	呉市	376	374	2	0.5	6 位
7 位	三次市	348	338	10	3.0	7 位
8 位	東広島市	281	247	34	13.8	9 位
9 位	庄原市	256	261	▲5	▲1.9	8 位
10 位	世羅町	229	211	18	8.5	11 位

③ 地区別観光客数の状況

地区別では、前年と比べて、安芸地区①が 142 万人 (5.8%)、安芸地区②が 62 万人 (7.4%)、備後地区が 10 万人 (0.5%)、備北地区が 5 万人 (0.8%) 増加した一方、芸北地区が 2 万人 (▲0.4%) 減少した。

図 3 地区別観光客数の状況

(単位：万人)



(3) 発地別観光客数の状況

① 県内・県外別観光客数の状況

県内観光客（地元観光客を含む）数は、前年比 147 万人減の 3,403 万人、県外観光客数は、前年比 362 万人増の 3,316 万人だった。

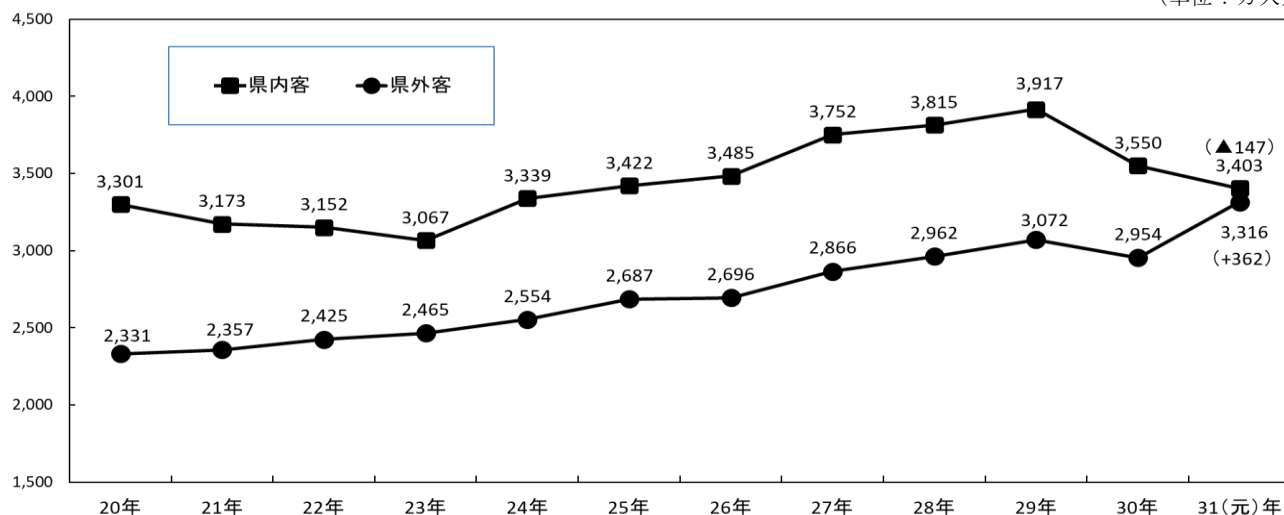
(単位：万人)

区分	平成 31 (令和元) 年	平成 31 (令和元) 年 構成比	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率
県内	3,403	50.6%	3,550	▲147	▲4.1%
県外	3,316	49.4%	2,954	362	12.3%

② 県内・県外別観光客数の推移

図 4 県内・県外別観光客数の推移

(単位：万人)



③ 発地エリア別観光客数の状況

県外の発地エリア別観光客の状況については、「近畿地方」と「関東地方」がそれぞれ 700 万人超で、この 2 地区の合計で半数近くを占めている。以下、「山陽地方」、「中部地方」、「九州地方」、「四国地方」、「山陰地方」の順だった。

発地エリア別観光客数の割合

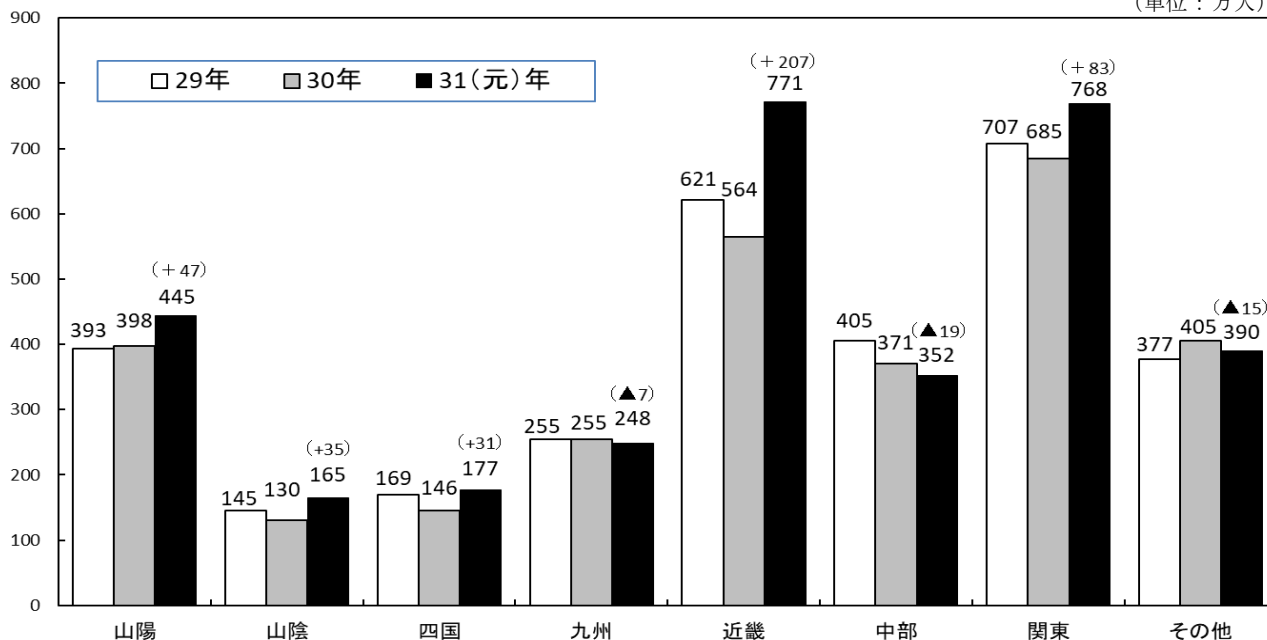
区分	近畿	関東	山陽	中部	九州	四国	山陰	その他
31(元)年	23.3%	23.2%	13.4%	10.6%	7.5%	5.3%	5.0%	11.7%
30年	19.1%	23.2%	13.5%	12.6%	8.6%	4.9%	4.4%	13.7%

前年に比べ、「近畿地方」は207万人、「関東地方」は83万人、「山陽地方」は47万人、「山陰地方」は35万人、「四国地方」は31万人増加した。

一方で、「中部地方」は19万人、「九州地方」は7万人減少した。

図5 発地エリア別観光客数の状況

(単位：万人)



④ 地区別にみた発地エリア別観光客数の状況

安芸地区①、②及び備後地区は「関東、近畿地方」などの大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地区及び備北地区は、「山陽、山陰地方」からの観光客が高い割合を占めている。

地区別、発地エリア別観光客数の割合

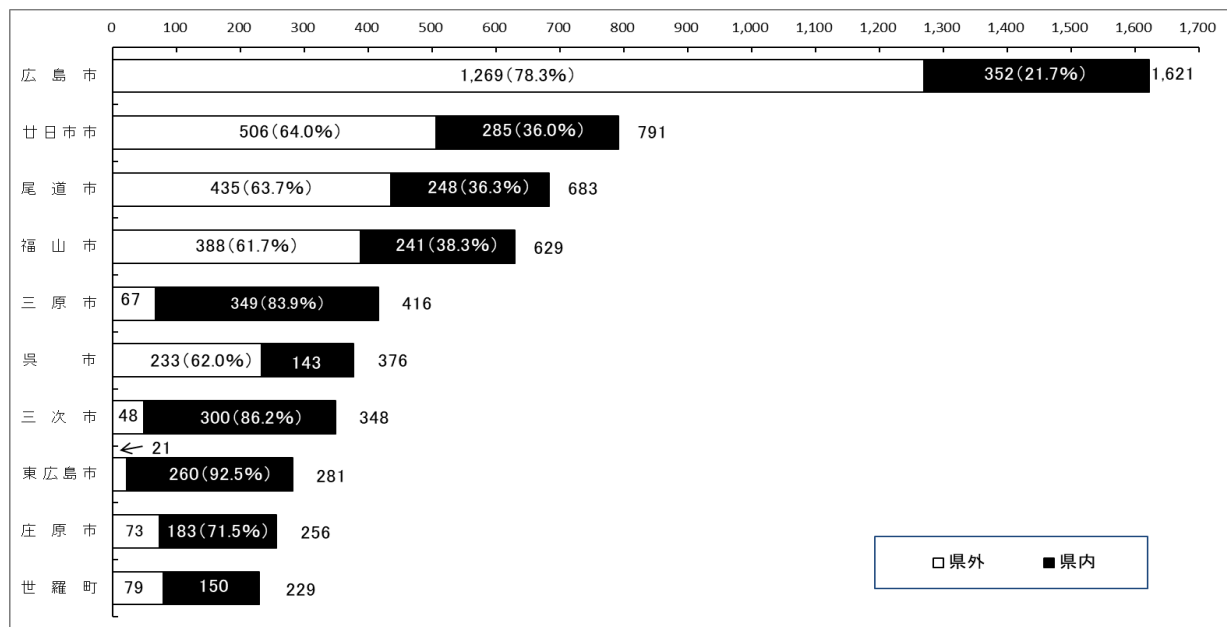
区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
県全体	13.4%	5.0%	5.4%	7.5%	23.3%	10.6%	23.2%	11.7%
安芸地区①	6.9%	2.9%	2.8%	7.0%	23.2%	12.1%	28.9%	16.3%
安芸地区②	14.0%	4.2%	9.0%	13.0%	25.6%	12.5%	14.6%	7.2%
芸北地区	47.7%	20.1%	5.2%	14.5%	5.0%	1.6%	4.2%	1.7%
備後地区	19.2%	4.8%	8.5%	5.8%	25.7%	9.2%	19.8%	7.1%
備北地区	35.7%	28.0%	8.2%	9.8%	12.0%	1.7%	3.2%	1.2%

⑤ 市町別にみた県内・県外観光客数の状況

観光客数の上位 10 市のうち、県外客の比率が県全体の平均 49.4%を上回っているのは、広島市 (78.3%)、廿日市市 (64.0%)、尾道市 (63.7%)、呉市 (62.0%)、福山市 (61.7%) の 5 市だった。

図 6 市町別県内・県外別観光客数（上位 10 市町）の状況

(単位：万人)



⑥ 市町別にみた発地エリア別観光客数の状況

県外からの観光客数が多い上位 5 市を見ると、広島市、廿日市市は「関東、近畿地方」から、尾道市、福山市は「近畿、関東地方」、呉市は「近畿、九州地方」からの観光客が高い割合を占めている。

市町別、発地エリア別観光客数の割合（上位 5 市町）

区分	山陽	山陰	四国	九州	近畿	中部	関東	その他
広島市	4.1%	2.3%	2.4%	7.6%	23.1%	12.0%	31.1%	17.4%
廿日市市	11.2%	4.6%	3.7%	5.6%	24.0%	12.8%	24.2%	13.9%
尾道市	9.5%	2.8%	5.3%	6.7%	27.4%	12.3%	23.9%	12.3%
福山市	17.6%	3.2%	7.8%	4.9%	31.2%	9.3%	22.6%	3.4%
呉市	10.3%	3.5%	8.7%	15.3%	24.4%	15.0%	14.8%	8.1%

(4) 目的別観光客数の状況

目的別では、「都市観光」が39.7%と最も高く（うち「ショッピング、レストラン等」が21.4%、「博物館、美術館等」が18.3%）、次いで「祭、行事」の15.7%、「神社、仏閣」の7.9%だった。

目的別観光客数の割合 上位10項目

区分	都市観光		祭、行事	神社、 仏閣	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	その他 スポーツ	自然探勝	温泉	ハイキング、 登山、 キャンプ	産業観光
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
31(元)年	21.4%	18.3%	15.7%	7.9%	7.7%	6.3%	5.0%	3.6%	2.5%	2.2%
30年	20.8%	18.4%	15.9%	7.7%	5.9%	5.9%	5.6%	4.9%	2.4%	2.4%

(注) 都市観光：都市を見たり、都市で学んだりすることを目的としたもの（博物館、美術館等）：美術館、博物館、動・植物園、水族館等
（ショッピング、レストラン等）：非日常の買い物や食事、映画鑑賞等

次に、地区別に目的別観光客の割合を見ると、すべての地区において「都市観光」が最も多く、次いで安芸地区①、②及び備後地区では「祭・行事」、芸北地区では「その他スポーツ」、備北地区では「大規模公園・レクリエーション施設等」が高い割合を占めている。

地区別・目的別観光客数の割合 上位10項目

区分	都市観光		祭、行事	神社、 仏閣	大規模 公園、 レクリエーション 施設等	その他 スポーツ	自然探勝	温泉	ハイキング、 登山、 キャンプ	産業観光
	ショッピング、 レストラン 等	博物館、 美術館 等								
県全体	21.4%	18.3%	15.7%	7.9%	7.7%	6.3%	5.0%	3.6%	2.5%	2.2%
安芸地区①	12.0%	34.9%	18.4%	14.8%	5.1%	3.5%	2.6%	2.2%	2.9%	1.5%
安芸地区②	12.7%	20.6%	15.3%	1.1%	11.2%	11.5%	3.8%	4.9%	2.7%	7.7%
芸北地区	25.5%	1.1%	9.0%	0.1%	0.9%	12.2%	9.6%	7.1%	2.9%	1.8%
備後地区	33.3%	4.4%	16.3%	5.6%	6.8%	6.5%	6.5%	3.1%	1.2%	1.5%
備北地区	28.8%	5.0%	7.2%	1.9%	21.6%	5.3%	8.5%	7.4%	4.3%	0.3%

(5) 旅行形態別観光客数の状況

観光客を一般客，団体客，修学旅行者^(注)別にみると，一般客は前年より 277 万人増加した。一方で，団体客は 60 万人，修学旅行者は 2 万人減少した。

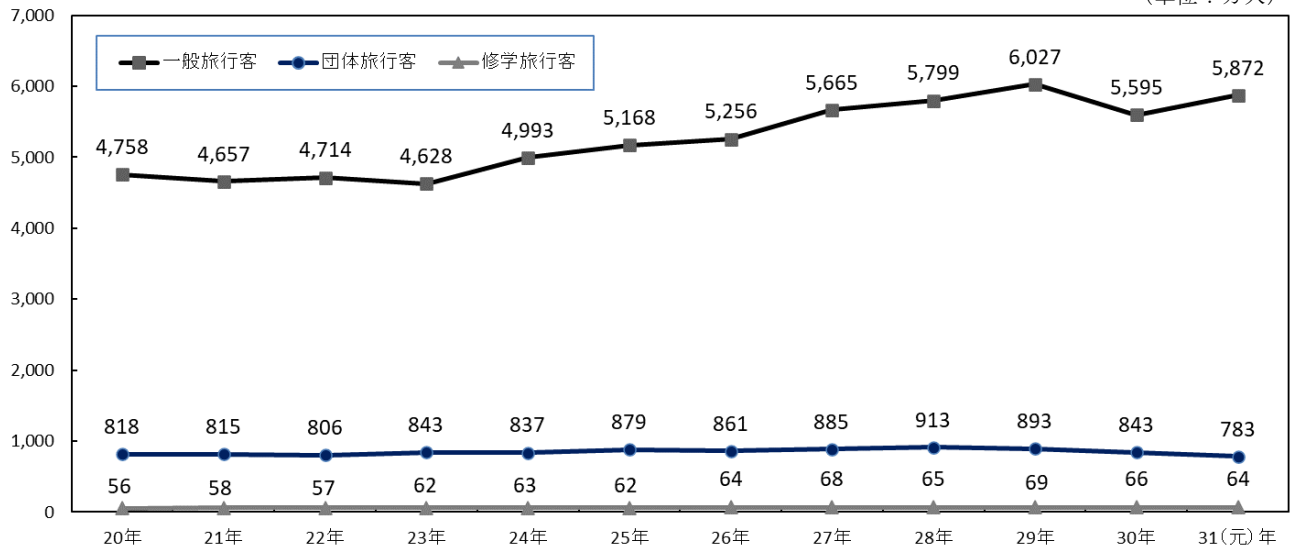
(単位：万人)

区分	一般客		団体客		修学旅行者	
	観光客数	構成比	観光客数	構成比	観光客数	構成比
広島県全体	5,872	87.4%	783	11.7%	64	1.0%
安芸地区①	2,237	85.7%	322	12.3%	52	2.0%
安芸地区②	778	86.6%	113	12.6%	7	0.8%
芸北地区	401	87.6%	56	12.2%	1	0.1%
備後地区	1,955	90.9%	191	8.9%	4	0.2%
備北地区	502	83.1%	102	16.9%	0	0.0%

(注) 一般客：団体客，修学旅行者以外の旅行者，団体客：10人以上の団体旅行者

図7 一般・団体・修学旅行別観光客数の推移

(単位：万人)



(6) 交通機関別観光客数の状況

観光客の利用交通機関をみると、自家用車利用者が3,593万人（前年比1.1%）と最も多く、観光客全体の53.5%を占めている。

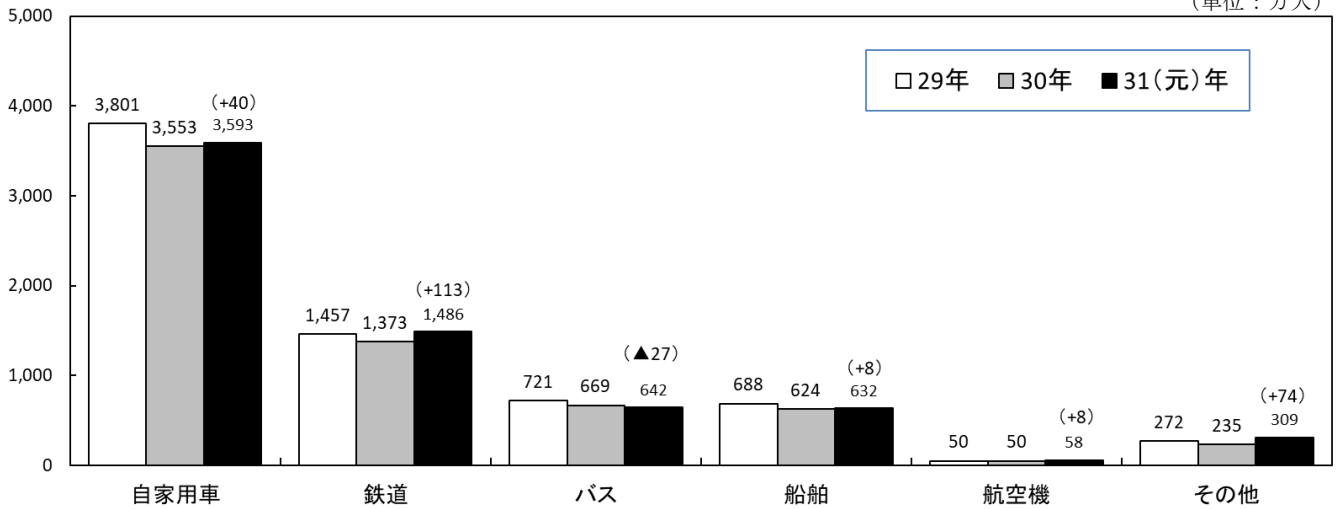
ついで、鉄道利用者が1,486万人（前年比8.2%）、バス利用者が642万人（前年比▲4.0%）、船舶利用者が632万人（前年比1.3%）、航空機利用者が58万人（前年比16.0%）だった。

交通機関別観光客数の割合

区分	自家用車	鉄道	バス	船舶	航空機	その他
31(元)年	53.5%	22.1%	9.6%	9.4%	0.9%	4.6%
30年	54.6%	21.1%	10.3%	9.6%	0.8%	3.6%

図8 交通機関別観光客数の状況

(単位：万人)



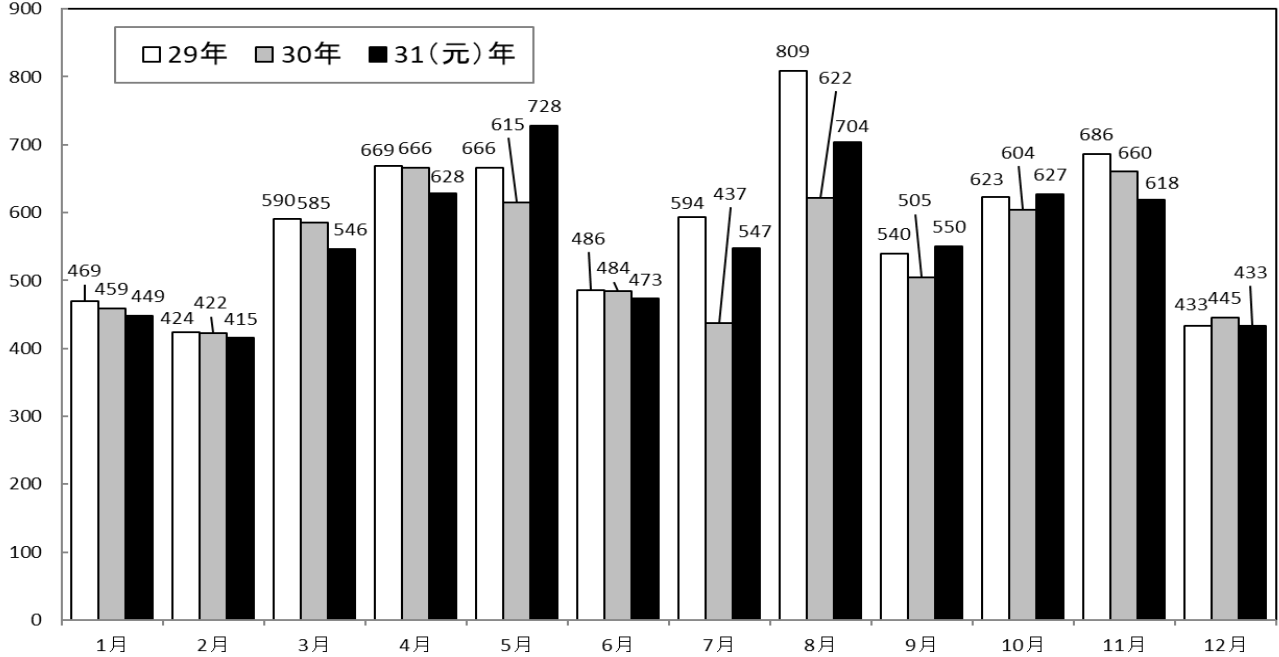
(7) 月別・季節別観光客数の状況

① 月別観光客数の状況

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、5月の728万人、次いで8月の704万人、4月の628万人、10月の627万人だった。

図9 月別観光客数の状況

(単位：万人)

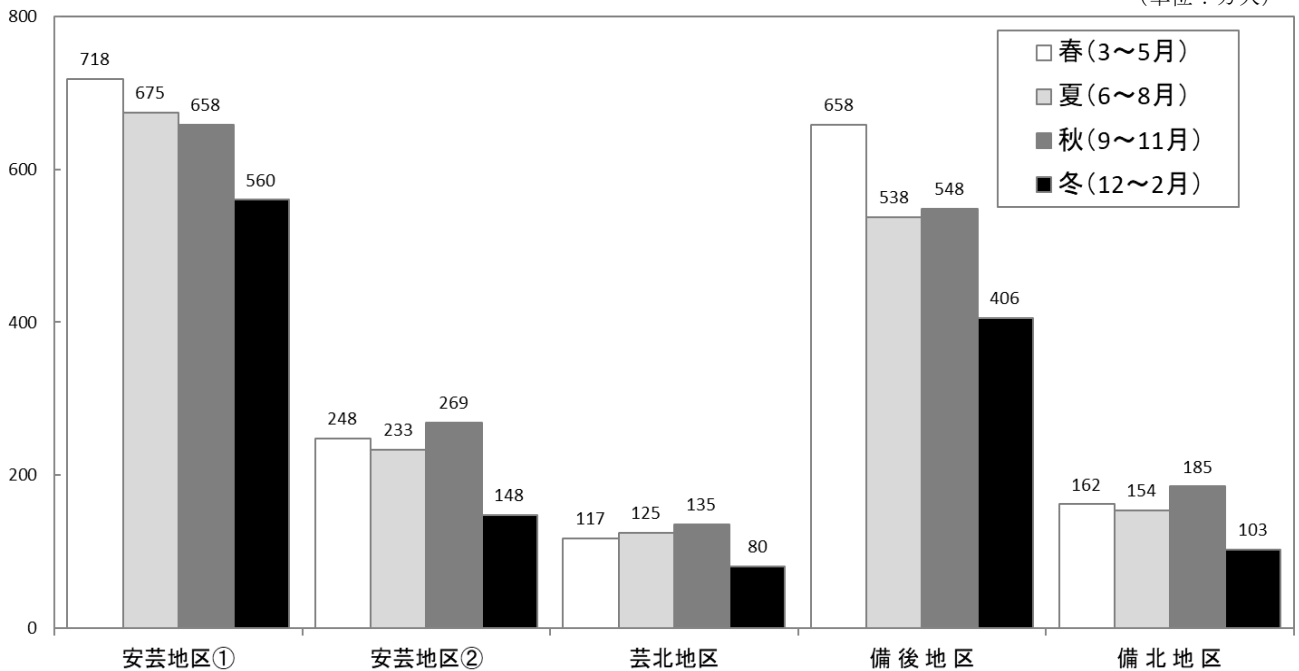


② 地区別・季節別観光客数の状況

季節別に見ると、観光客が最も多くなったのは、安芸地区①及び備後地区においては春、安芸地区②、芸北地区及び備北地区においては秋となった。

図10 地区別・季節別観光客数の状況

(単位：万人)



2 外国人観光客数の状況

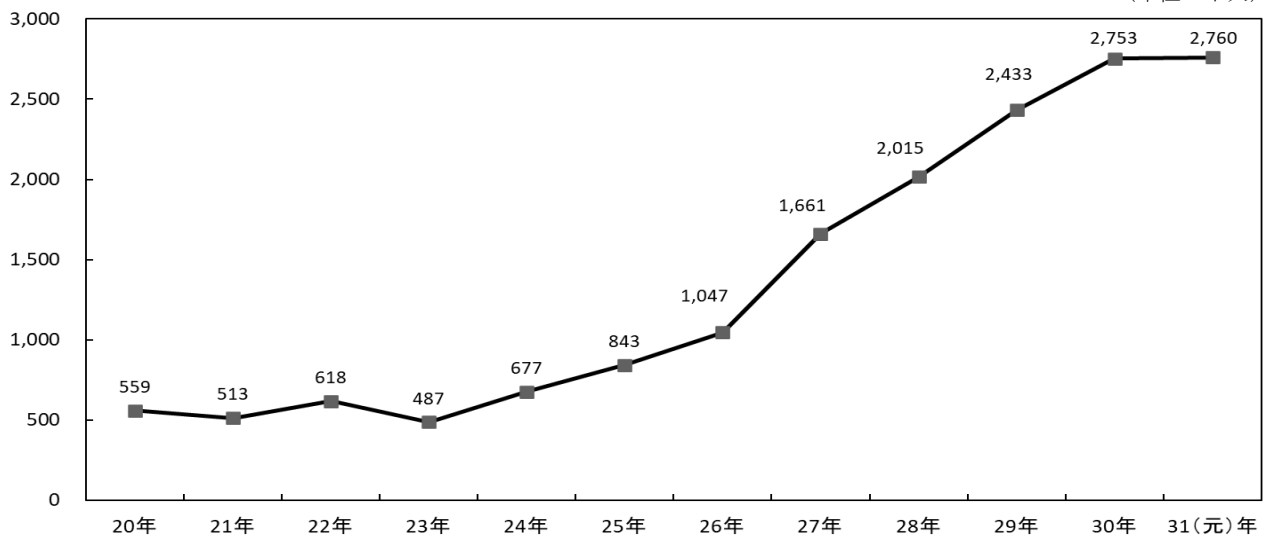
平成 31（令和元）年に本県を訪れた外国人観光客数は、2,760 千人となっており、前年と比べて7千人（0.3%）増加し、8年連続して過去最高を更新した。

（単位：千人）

区 分	平成 31(令和元)年	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率
外国人観光客数	2,760	2,753	7	0.3%

図 11 外国人観光客数の推移

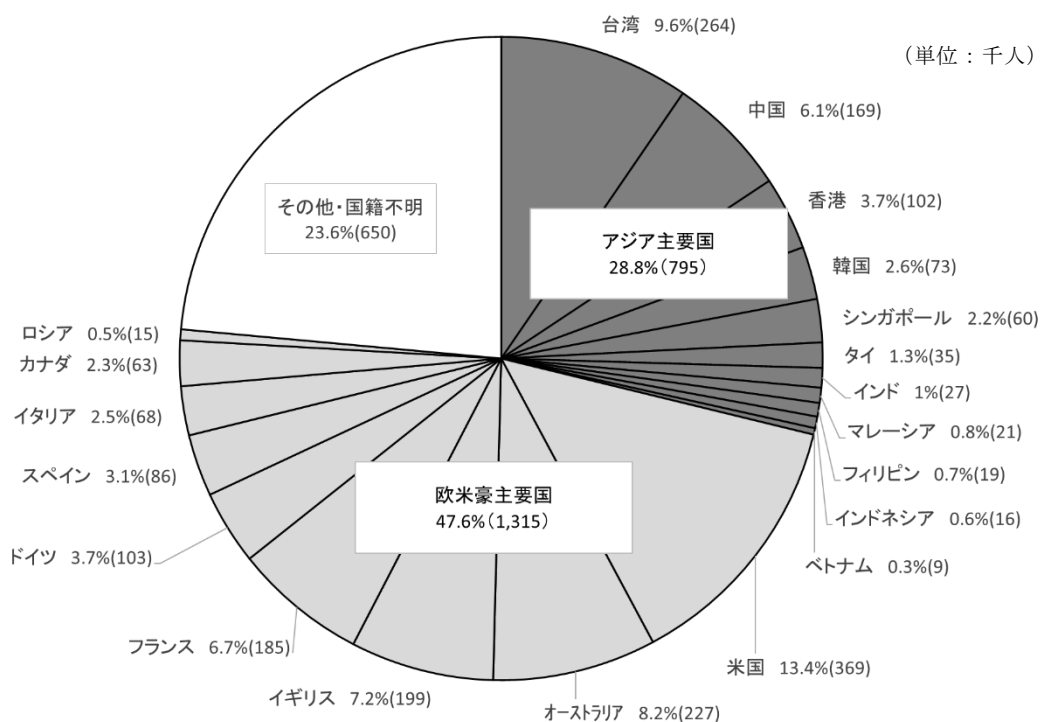
（単位：千人）



次に、市場別に外国人観光客の割合を見ると、欧米豪主要国からの観光客が全体の47.6%を占め、アジア主要国からは28.8%であった。

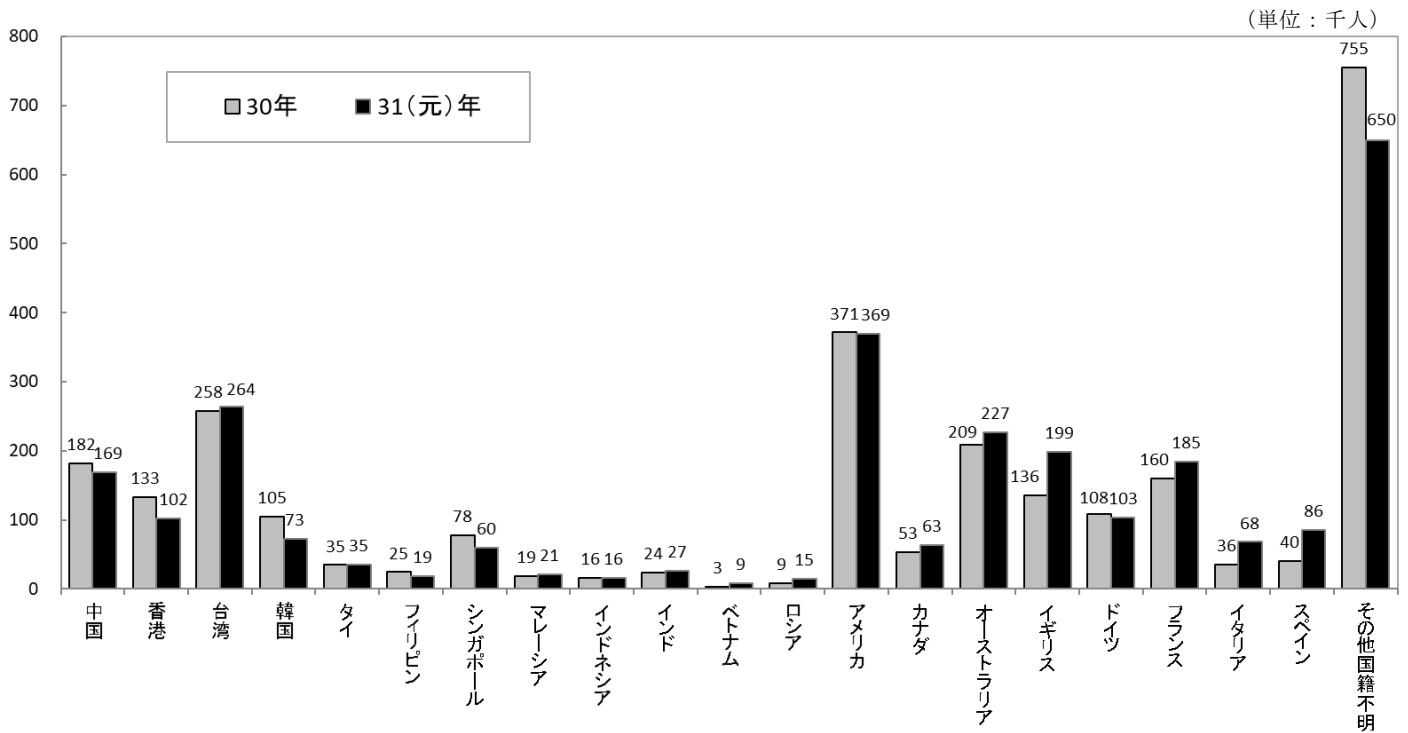
図 12 市場別外国人観光客数の割合

（単位：千人）



市場別では、米国が最も多く（369千人）、次いで台湾（264千人）、オーストラリア（227千人）の順となった。

図 13 市場別外国人観光客数の推移



市場別外国人観光客数の順位（上位 10 位）

(単位：千人)

順位	国籍名	平成 31 (令和元)年	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率	前年順位
1 位	アメリカ	369	371	▲2	▲0.5%	1 位
2 位	台湾	264	258	6	2.3%	2 位
3 位	オーストラリア	227	209	18	8.6%	3 位
4 位	イギリス	199	136	63	46.3%	6 位
5 位	フランス	185	160	25	15.6%	5 位
6 位	中国	169	182	▲13	▲7.1%	4 位
7 位	ドイツ	103	108	▲5	▲4.6%	8 位
8 位	香港	102	133	▲31	▲23.3%	7 位
9 位	スペイン	86	40	46	115.0%	12 位
10 位	韓国	73	105	▲32	▲30.5%	9 位

3 宿泊客数の状況

(1) 平成 31 (令和元) 年の宿泊客数

平成 31 (令和元) 年の宿泊客数は 1,009 万人で、平成 30 年と比べて 116 万人 (13.0%) 増加した。

(単位：万人泊)

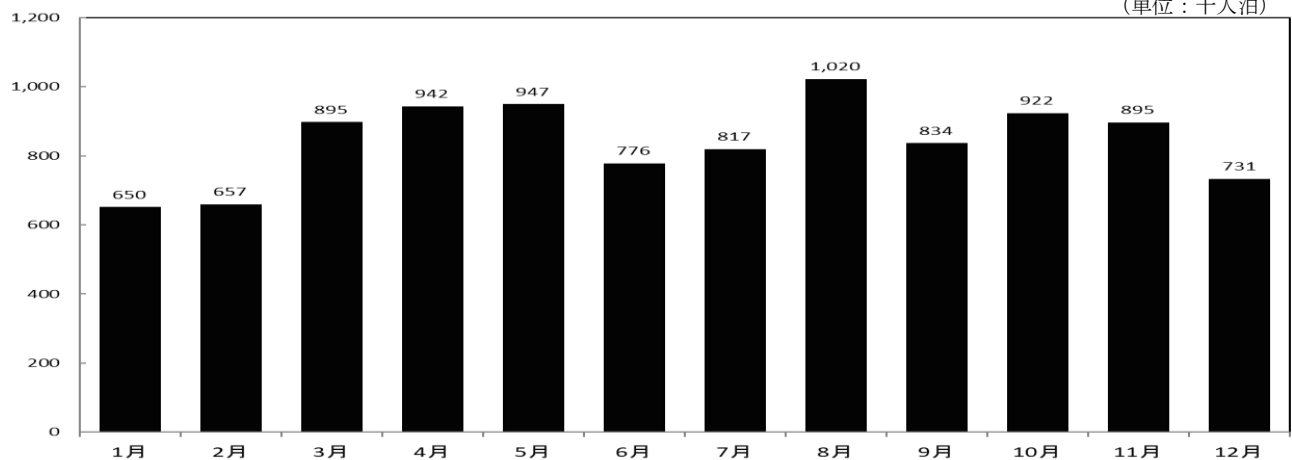
区 分	平成 31 (令和元) 年	平成 30 年	対前年増減	対前年増減率
宿泊客数	1,009	893	116	13.0%

(2) 月別宿泊客数の状況

月別に見ると、最も宿泊客数が多かったのは、8月の102万人、ついで5月の94万人、4月の94万人、10月の92万人だった。

図 14 月別宿泊客数の状況

(単位：千人泊)



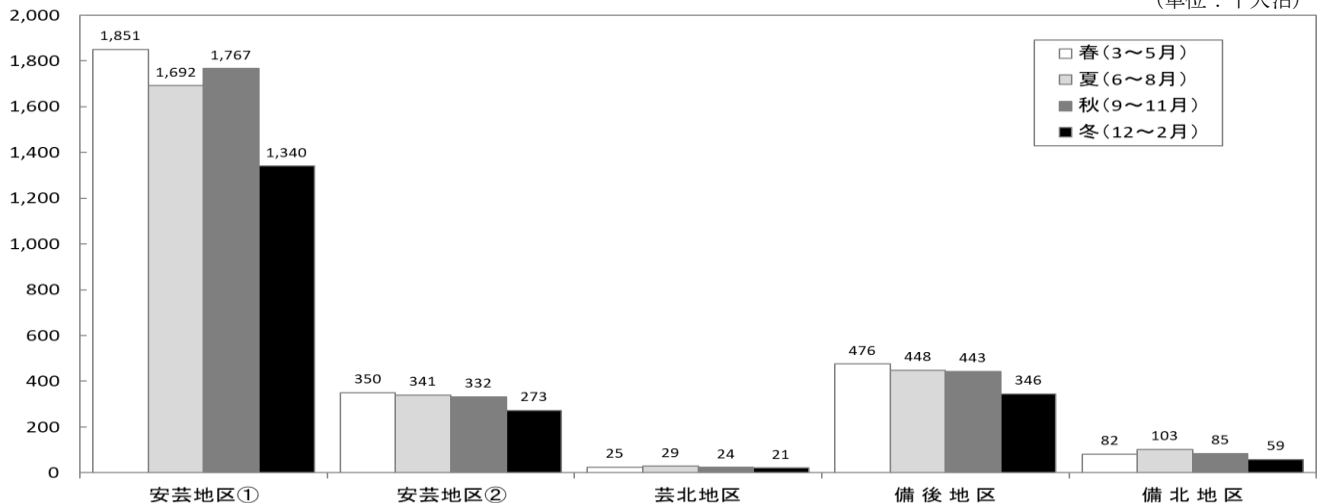
(3) 地区別・季節別宿泊客数の状況

本県の宿泊客を地区別で見ると、安芸地区①の665万人が県全体の7割近く(65.9%)を占めており、次いで備後地区171万人、安芸地区②130万人、備北地区33万人、芸北地区10万人の順となった。

季節別に見ると、宿泊客が最も多くなったのは、安芸地区①、②及び備後地区においては春、芸北地区及び備北地区においては夏だった。

図 15 地区別・季節別宿泊客数の状況

(単位：千人泊)



4 観光客数及び観光消費額の状況

(1) 観光客数の推移

平成 31 (令和元) 年の総観光客数は 6,719 万人となり、そのうち県外観光客は 3,316 万人で、前年に比べて 362 万人 (12.3%) 増加した。

一方で、地元 (市町内) 観光客は 1,549 万人で、前年に比べて 201 万人 (▲11.5%) 減少し、総観光客数に占める割合は 23.1% だった。

(単位：万人)

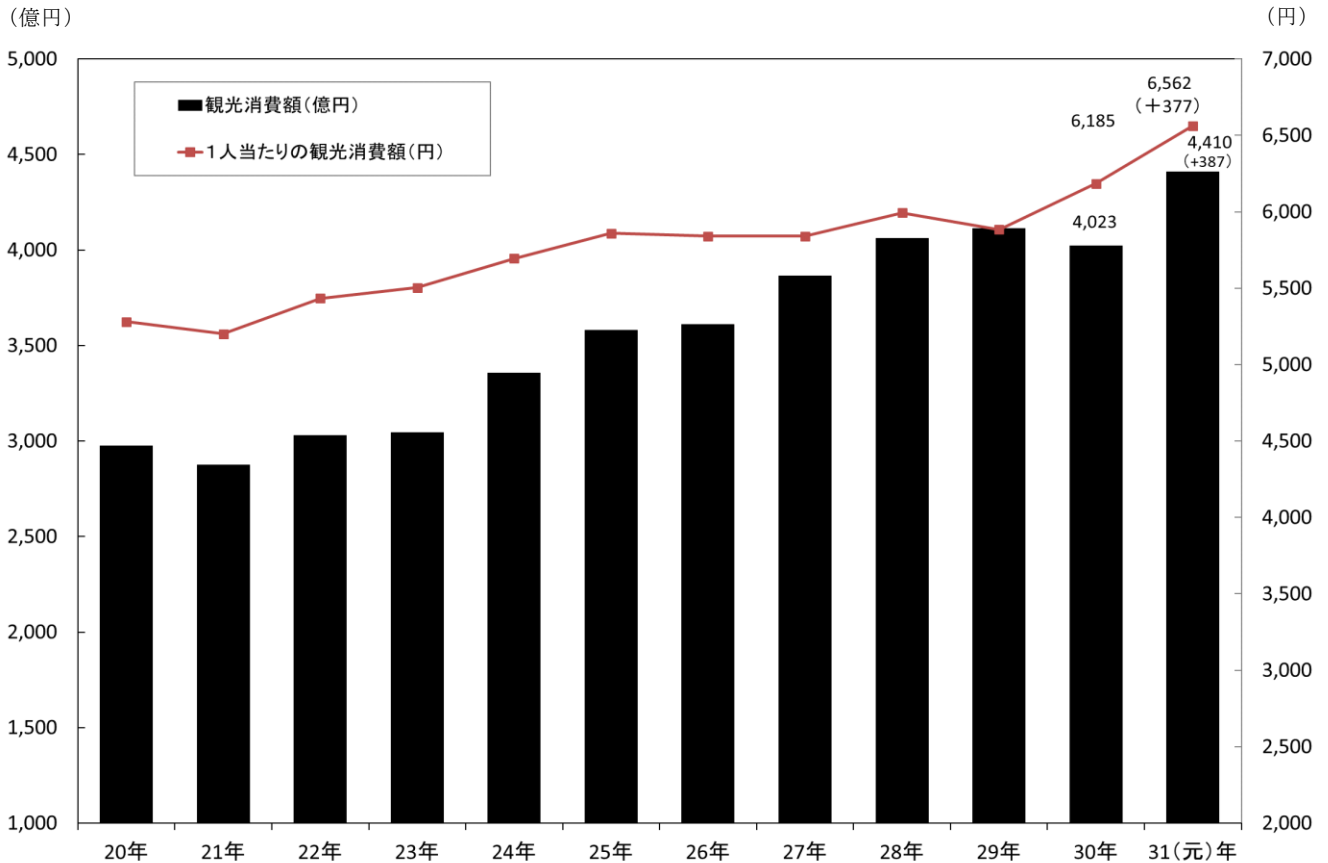
区分	年次	県内観光客			県外観光客	総観光客数	
		地元観光客	市町外観光客	計			
		(A)	(B)	(A)+(B)	(C)	(A)+(B)+(C)	
実績	10年	898	1,678	2,576	1,944	4,520	
	11年	960	1,788	2,748	2,350	5,098	
	12年	984	1,753	2,737	2,107	4,844	
	13年	1,043	1,747	2,790	2,014	4,804	
	14年	1,126	1,887	3,013	2,048	5,061	
	15年	1,081	1,891	2,972	2,004	4,976	
	16年	1,162	1,885	3,047	2,051	5,098	
	17年	1,212	2,003	3,215	2,341	5,556	
	18年	1,433	1,945	3,378	2,421	5,799	
	19年	1,434	1,968	3,402	2,359	5,761	
	20年	1,415	1,886	3,301	2,331	5,632	
	21年	1,424	1,749	3,173	2,357	5,530	
	22年	1,462	1,690	3,152	2,425	5,577	
	23年	1,508	1,559	3,067	2,465	5,532	
	24年	1,636	1,703	3,339	2,554	5,893	
	25年	1,690	1,732	3,422	2,687	6,109	
	26年	1,737	1,748	3,485	2,696	6,181	
	27年	1,863	1,889	3,752	2,866	6,618	
	28年	1,897	1,918	3,815	2,962	6,777	
	29年	1,981	1,936	3,917	3,072	6,989	
	30年	1,750	1,800	3,550	2,954	6,504	
	31(元)年	1,549	1,854	3,403	3,316	6,719	
	構成比	10年	19.9%	37.1%	57.0%	43.0%	100.0%
		11年	18.8%	35.1%	53.9%	46.1%	100.0%
		12年	20.3%	36.2%	56.5%	43.5%	100.0%
		13年	21.7%	36.4%	58.1%	41.9%	100.0%
		14年	22.2%	37.3%	59.5%	40.5%	100.0%
		15年	21.7%	38.0%	59.7%	40.3%	100.0%
		16年	22.8%	37.0%	59.8%	40.2%	100.0%
		17年	21.8%	36.1%	57.9%	42.1%	100.0%
		18年	24.7%	33.5%	58.3%	41.7%	100.0%
19年		24.9%	34.2%	59.1%	40.9%	100.0%	
20年		25.1%	33.5%	58.6%	41.4%	100.0%	
21年		25.8%	31.6%	57.4%	42.6%	100.0%	
22年		26.2%	30.3%	56.5%	43.5%	100.0%	
23年		27.3%	28.2%	55.4%	44.6%	100.0%	
24年		27.8%	28.9%	56.7%	43.3%	100.0%	
25年		27.7%	28.4%	56.0%	44.0%	100.0%	
26年		28.1%	28.3%	56.4%	43.6%	100.0%	
27年		28.2%	28.5%	56.7%	43.3%	100.0%	
28年		28.0%	28.3%	56.3%	43.7%	100.0%	
29年		28.3%	27.7%	56.0%	44.0%	100.0%	
30年	26.9%	27.7%	54.6%	45.4%	100.0%		
31(元)年	23.1%	27.6%	50.6%	49.4%	100.0%		

(2) 観光消費額の状況

平成 31（令和元）年に、観光客が本県において交通費、宿泊料、みやげ品代、飲食代、入場料などに消費した観光消費額の総額は 4,410 億円で、前年に比べて 387 億円（9.6%）増加した。

また、観光消費額の総額を総観光客数で除した 1 人当たりの観光消費額^(注)は 6,562 円で、前年より 377 円（6.1%）増加した。

図 16 観光消費額の推移



(注) 1人当たりの観光消費額＝総観光消費額／総観光客数